

「令和元年度ふくしま『学びのスタンダード』推進事業」推進地域の取組

パイロット校名	南相馬市立石神中学校、南相馬市立石神第二小学校
推進協力校	南相馬市立石神第一小学校

主体的・対話的な学習を通して、児童生徒が相互に啓発し合える授業」と「自己マネジメント力に基づく家庭学習」による学習サイクルの確立

「学びのスタンダード」推進事業3年目として、石神ブロックでは研究テーマを『主体的・対話的な学習を通して、児童生徒が相互に啓発し合える授業』と『自己マネジメント力に基づく家庭学習』による学習サイクルの確立」と設定し、1年間取り組んできました。その取組の内容についてご紹介いたします。

1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について

- (1) 普段の授業づくりへの活用
 - ・教材との出会わせ方を工夫し、興味・関心を高める課題設定（導入）
 - ・ねらい（目的）を明確にした活動内容・形態の工夫（展開）
 - ・考えを深め、理解や気付きを高める「まとめ・振り返り」の工夫（終末）
- (2) 指導案作成への活用
 - ・各段階の重点指導事項
 - ・主体的・対話的な活動、学び合いの時間の確保
 - ・まとめ・振り返りから家庭学習へのつながりを持たせるための手立て
これらの点を指導案に位置付け、研究の視点の焦点化を図った。
- (3) 研究授業後の事後研究への活用
 - ・当該授業の成果と課題
 - ・今後の研究の方向性（推進地域協議会などでの協議）
などにおいて、振り返りや協議の視点として活用した。

2 パイロット校の取組内容

- (1) 複数教科における教科担任制の取組
石神第二小学校では、算数科・理科・図画工作科・外国語・書写の授業で教科担任制を実施し、教員の専門性を生かして指導ができるように努めている。6年生の算数では4人の教師の組み替えによるTTの授業や算数科の授業時間を1組は1校時、2組は2校時に固定し1組2組であえて進度を1単位時間ずらして授業を行った。具体的には、以下のような指導体制をとった。

A：1組 B：2組担任 C：担任外 D：市学力向上教員

1組	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	1時	2時	3時
	A・C	A・C	A・C	A・C	A・C	A・C	A・C	A・C	A・D	A・D	A・D
2組	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	1時	2時	3時
	B・D	B・D	B・D	B・D	B・D	B・D	B・D	B・D	B・C	B・C	B・C
単元	拡大図と縮図(8時間)								速さ(11時間)		

- (2) 石神ブロックとしての小・中連携の取組

- ・三校での家庭学習交換展示
学期に一回程度、各校の家庭学習の参考作品の交換を実施し、各校の自主学習の交流を行った。



3 推進協力校の取組内容

(1) 校内研修の実施

- ① 1人1授業の校内授業研究を計画的に実施し、互見授業によって研修を深めた。
- ② 「学び合い」「まとめ・振り返り」に焦点を当て、児童の発達段階に応じた学びのあり方について全職員で共通理解を持って研究に取り組んだ。

(2) 7月5日 石神ブロック推進協力校（石神第一小学校）授業研究会

推進協力校授業研究会において、2年・6年の算数科の授業を公開した。グループによるワークショップ型の事後研究会では、小・中学校の教員が校種を超えて活発な話し合いを行った。



4 3年間の取り組みから見た成果と課題

(1) 成果

- ① 推進地域協議会を年4回実施し、単に連絡調整のための協議会ではなく、「学び」に関する話し合いを行い、指導主事の先生方からご指導をいただくなど、有意義な協議会とすることができた。
- ② 「授業スタンダード」をもとに、石神ブロックの取組を焦点化した「石神授業スタイル」を作成し、小・中学校で共通理解をもって取り組むことができた。
- ③ 授業公開の前には、事前研究会（指導案検討会）を行い、指導主事の先生方との話し合いを通し、指導案の修正・改善につなげることができた。
- ④ 家庭学習の習慣化を目指し、指導案の中に「まとめ・振り返りと家庭学習との関連」の項目を加えるなど工夫することができ、また石神ブロック「家庭学習の手引き」を作成し、小・中学校で共通認識のもと取り組むことができた。
- ⑤ 授業の中に、対話的な活動を意識的に取り入れ、生徒同士の学び合いを推進することができた。
- ⑥ 校種、教科を超えた互見授業を定期的に行うことができた。
- ⑦ 「ふくしま『学びのスタンダード』推進事業」のねらいの一つである「日常の教員の学び合い」を積み重ねることにより、授業改善と指導力向上に努めることができた。また、若手教員が同学年の学級の指導を参考にするという試行の継続により、若手教員の授業力の向上を図ることができたとともに、その成果を児童の姿に感じることができた。

(2) 課題

- ① 小・中学校間でのまとめ・振り返りの定義を確かなものとし、授業と家庭学習とのつながりを強め、学習サイクルの確立を目指し今後も取り組んでいく必要がある。
- ② 学習内容を精選し、話し合いや考察、まとめの時間の確保に努めるなど、生徒が学びを深めるために必要な手立てについて研修していく必要がある。
- ③ 校内授業研究や互見授業での「授業スタンダード」のチェックシートの使用を継続し、取組が一過性のものにならないよう取り組んでいく必要がある。
- ④ 石神地区小・中学校三校の強化された連携を継続していく必要がある。